

現役大学院生とやってみよう

もう迷わない！



2025年度秋  
筑波大学附属図書館  
LAセミナー

# 引用・参考文献の書き方

ワークショップを開催しました！

12月12日に今年度第二回のLA企画として「引用・参考文献の書き方ワークショップ」が開催されました。レポート・論文に欠かせない引用・参考文献。しかし、引用の仕方・参考文献のあり方について教わる機会は実は少ないのでしょうか？そこで、本ワークショップでは学生サポートデスクでラーニングアドバイザーを務める現役大学院生が、自らの経験を通じて培ったノウハウを伝授しました。

本Prismでは、ワークショップ当日の様子をお届けいたします。

## 本日のスケジュール

はじめに（数分）

2. 第1部「アクティビティ」（10分）
3. 第2部「引用・参考文献の選び方・書き方」（20分）
4. 第3部「アクティビティの答え合わせ」（10分）
5. 第4部「質疑応答・相談会」（20分）
6. おわりに（数分）



## 【アクティビティ】

ワークショップ開始早々、いきなりアクティビティを実施しました。配られたワークシートには模擬のレポートや文献が記載されており、実際に参考文献を書いてみるという課題を参加者にやっていただきました。



## 【引用・参考文献とは？】

引用とは資料となる先行研究の内容を把握した上で、自分の主張を生み出し、補強するために行います。また、主張の説得力は、根拠となる参考文献の有無や種類によって大きく影響を受けます。

こうした文献の探索や引用の方法を詳しく教わることは珍しく、適当にやってしまっている学生も少なくないのではないかでしょうか。しかし、いずれ卒業論文を書くにあたってこうした知識は必須になるため、レポートを書く段階から正しい引用のあり方を身につけることが肝心です。

真剣にアクティビティに取り組む参加者の皆さん

## 【参考文献の探し方】

参考文献のうち書籍と論文は大学附属図書館のホームページから検索できます。その方法を文献の種類別に解説しました。書籍・論文は図書館サイトの OPAC・データベースをそれぞれ使うことでキーワード検索を通じた文献の絞り込みを行うことができます。大学が契約する幅広い分野のジャーナルから論文を読むこともできます。こうして附属図書館のサイトを有効活用することでスムーズに文献選びができるることを伝えました。

さらに近年は、生成 AI の特性を理解した上で有効活用する能力が求められます。そこで本ワークショップでもこの話題を取り上げ、ハルシネーション(偽文献の生成)に注意しつつ、適切な指示を出すことで効率よく文献集めをする例を紹介しました。



「図書館ホームページが便利です♪」

## 【引用の方法】

本文に引用文をそのまま取り入れる「直接引用」と文献を要約して取り入れる「間接引用」の違いを明確にした上で、文献の記載方法を解説しました。文献の示し方は多様で分野によってルールが違うことを説明し、一般的な引用方法をいくつか紹介しました。ちなみに、文献検索サイトから文献引用のフォーマットをダウンロードするのが一番楽である様です。



最後はグループに分かれてじっくり質疑応答

## 【アクティビティ…(の続き)】

一通り解説したところで、最初に行った課題にもう一度やってみて、ワークショップ前後の回答を比較し、本ワークショップでの学びを体感していただきました。

## 【最後に】

試験期間直前に関わらず、1年生から卒論直前の4年生まで幅広く参加していただきました。本当にありがとうございました。

(文責 : LA SAVAGE)



大学院生であるLAが、筑波大生の皆さんの学習や大学生活の悩みをサポート！！

皆さんと対話を通して一緒に考え、LA自身の経験に基づいて精一杯アドバイスします

学生サポートデスクの  
詳細や予約はこちら→ 

